

1. 将来展望に関する現状認識について

これまで、国では年少人口の減少が続き、少子化が進行しながらも、ベビーブーム（団塊の世代）や第2次ベビーブーム（団塊ジュニアの世代）という大きな人口の塊があったため、出生率が下がっても出生数が大きく低下しなかったことや、平均寿命が伸びたことによって死亡数の増加が抑制されていたことにより、総人口は長らく増加を続けてきました。

しかし、この人口貯金ともいえる状況が、ついに使い果たされ、2008 年をピークに日本の総人口は減少局面に入り、2018 年 10 月 1 日時点の総人口は 1 億 2,644 万 3 千人、2018 年の出生数は 1899 年の調査開始以来最低の 91 万 8 千人となっています。

八百津町の総人口は、年々人口減少を続け 2015 年には 11,027 人となりました。また、1985 年～1990 年の間に年少人口比率と高齢人口比率の逆転がおき、今後も人口構成が変化しながら、本格的な減少傾向に入っていきます。

人口減少の進み方は大きく三段階に分けることができますが、八百津町は 2025 年位から「第二段階」（若年人口（0～14 歳人口及び 15～64 歳人口）の減少が加速化するとともに、老年人口（65 歳以上人口）が維持または微減する時期）に入り、「人口急減」の状態になると予測されています。

人口減少の進行によっておきるのは、単に人口が減少していくだけでなく、人口構成そのものが大きく変化します。低出生率が続き、少子化が進行する中で、生産年齢人口も減少し、平均寿命の伸長もあいまって急速に高齢化が進んでいきます。

その結果、労働力人口の減少を通じた経済のマイナス成長や高齢者の増加と若年層の減少に伴い、年金、医療、介護など社会保障における現役世代の負担が増大することから、住民の生活水準の低下が指摘されています。また、商業施設や医療機関などの生活関連サービスやバス等地域公共交通が縮小・撤退することによる地域における生活の快適性への懸念が考えられます。

さらに、高齢化による、地域コミュニティの担い手の不足、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯の増加など地域の安全性や持続性の確保は大きな問題といえます。

八百津町においては、自然増減・社会増減の影響が小さくないため、転出を抑え、より住みやすい町づくりを進める必要があります。また、子育て期に当たる 20～39 歳女性人口の減少などを考えると、自然増減・社会増減の両面に対する施策に取り組む必要があると考えられます。

2. 人口減少の克服を目指す取り組みの方向性

人口減少は、明日からの生活に直ちに大きな影響はなくとも、今後の経済・暮らしの様々な面に影響を与える可能性は高いと考えられます。これまで我々が経験したことのない人口減少に単に不安を抱くだけでなく、できるだけ早期に人口減少に歯止めをかけること、また、当面の人口減少の進行と人口構造の変化を前提に、社会の仕組みを捉え直すことを考えていかなければなりません。

大切なことは、この現実を漫然と受け止めるのではなく、これから、どのように暮らし、どのような地域をつくりたいのかということを考え、取り組んでいくことです。また、八百津町においても、地域ごとに異なる人口減少の状況や課題を踏まえ、強みや特徴を活かした人口減少・適応対策も並行して進めていくことが必要です。

まち・ひと・しごと創生を一体的に推進し、以下の3つの方向性で進めていきます。

① 生涯活躍できる環境を整備し、人口減少に歯止めをかける

生産年齢人口の層と幅を増やすためにも、元気な高齢者等が活躍できる環境を整備するとともに、八百津町の持つ魅力に磨きをかけながら、まちの魅力を情報発信し、住みたくなるまちの創造を進め、移住の流れを呼び込む。また、新しい仕事の創造や現状足りていない仕事分野への手当てを手厚くするなど、安心して子育てができる環境と、Uターンがしやすい環境の整備をし、次の世代へ続けていく。

② 若い世代の仕事・雇用、子育て、教育を支援する生活環境の整備

人口減少を克服し、将来にわたり安定した人口を維持していくため、若者が希望どおり結婚し、妊娠、出産、子育てができる社会環境を実現する必要がある。

また、若者や子育て世代にとって魅力のある、住みたくなる、子育てしたくなるまちを実現し、町内から出て行かない、町外から呼び込むまちを実現する。

③ 安全・安心で持続可能なまちづくり

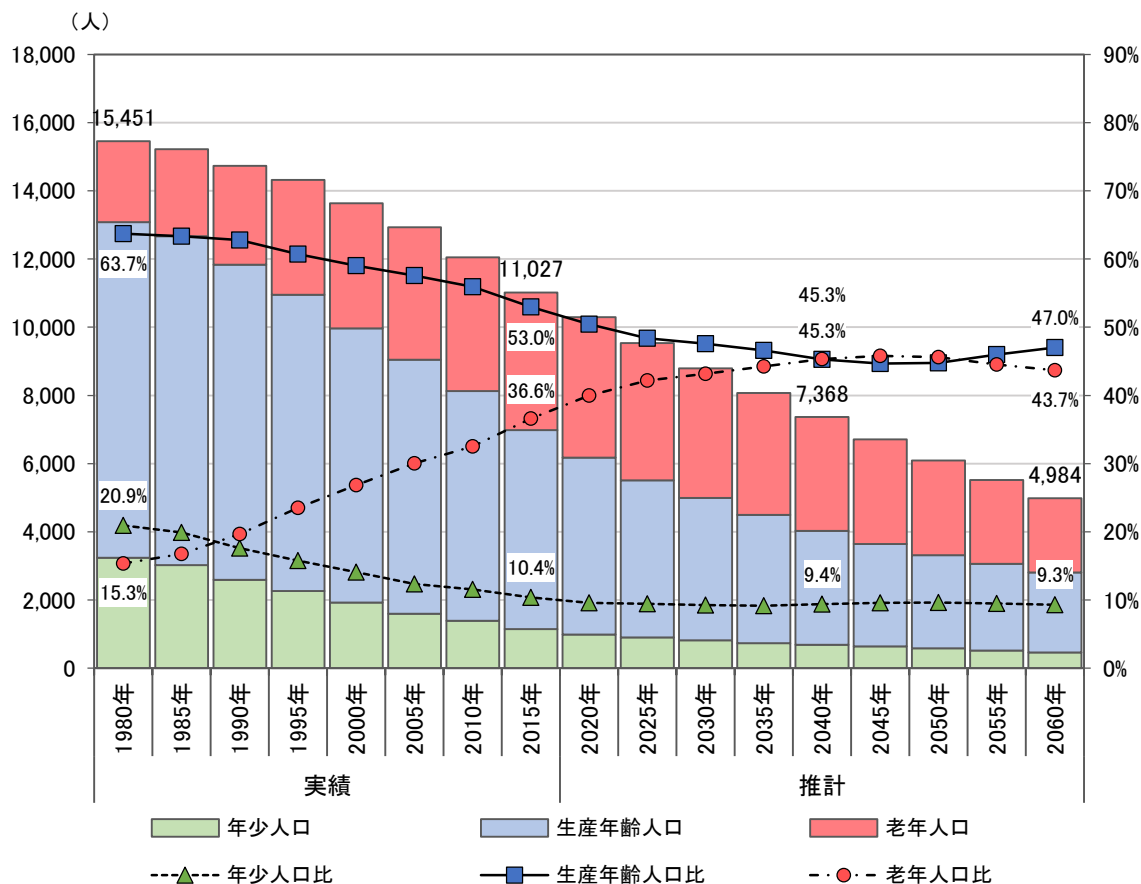
人口減少、少子高齢社会において、活力あるまちであり続けるため、人口減少、少子高齢化を起因とする様々な課題への対応を進めるとともに、人口減少対策に対し八百津町が一丸となって取り組み、住民が将来にわたって安全・安心で、健康的に暮らしやすいまちを実現する。

3. 人口の将来展望

国の長期ビジョンと岐阜県のまち・ひと・しごと創生総合戦略を踏まえ、八百津町の様々な施策の取組が効果を発揮されることで、出生率が維持されることを目標とします。

また、社会増減は社会減の状況が大きくなりつつあることから、積極的な移住や定住促進施策により、**移動率が2010年の水準まで回復することを目標とします。**

●人口の将来展望（年齢3区分別人口及び割合）



■2060年の目標人口「5,000人」

推計を踏まえるとともに、今後の地方創生への取組を確実に進め、2060年の目標人口を「5,000人」とします。



八 百 津 町 人 口 ビ ジ ョ ン

発行年月：令和２年３月

発 行：八百津町役場 総務課

住 所：加茂郡八百津町八百津 3903 番地 2

電 話：0574-43-2111

F A X：0574-43-0969

